

社会福祉法人中央会 平成29年度事業報告

【施設方針】

施設理念「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

【行動方針】

1. 地域包括ケアシステムを見据えた運営

利用者様はありまつ圏域を中心とした近隣の方々がほとんどであり、特別養護老人ホームへは地域の方を優先して入居して頂いている。一番遠方の方は、特別養護老人ホームは昌永町、グループホームは菊川町、小規模多機能は泉野町だった。ショートステイの送迎も国道8号線と犀川を超えることは少なく、遠い方でも3km内の送迎である。地域包括ケアシステムの望む30分以内に提供できる施設として存在できている。またご自宅が近いということは、家族様が来やすいため面会が多く「家族のつながり」が継続しやすい。またボランティア・学生さんなど地域の方々に来て頂く機会が年ごとに増えており、施設からも米泉小学校運動会などの地域行事に招待され例年出かけている。「地域のつながり」のある暮らしを感じて頂いている。地域包括ケアシステム「重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで続けられる」に向けて、貢献できたと思われる。

2. 経営基盤の強化と確立

稼働率を上げるため中央会グループと連携し空床コントロールを積極的に行った。稼働率は2事業所は上がり、2事業所は維持となった。反省点はデイサービスで稼働率が下がったことである。居宅介護支援事業所ありまつのケアマネの人数が一時期減ったため紹介が減ったこと、大雪の影響で1月2月にお休みする利用者様が多かったことも原因として挙げられる。大雪対策については小規模多機能では独居の利用者様が多いため雪かきして迎えに行き緊急宿泊で対応した。ショートでは宿泊延長できる場合はできるだけ対応した。除雪ができないため自宅から出られない独居や老夫婦二人暮らしの方が多いと実感した。自然災害時の支援は今後の検討課題である。

3. 中央会グループ内での連携した運営

退院して施設に直接入居する利用者様には病院の退院カンファレンスに出席し、施設での生活がスムーズにいくよう職員配置などを含めた受け入れ準備を整えている。担当ケアマネからの情報も欲しいところだが病院から直接情報提供を受けることの方が多かったため、在宅での生活支援へと繋がられなかった反省点もある。また自宅からショートに来られた時点で看護師が異常を発見、病院に搬送することもあった。医療との連携は率先して行えた。

4. 5事業所（特養・ショート・デイサービス・小規模多機能・グループホーム）同士の連携した運営

入居の特別養護老人ホームとグループホームに空室が出た時は、各事業所からも入居候補者の情報を得るための会議を開催し連携した入居判定ができた。ショート・デイサービス・小規模多機能においても利用者様が必要とするサービスを提案し、切れ目のないサービスの提供に貢献できた。

5. デイサービスの予防・総合事業移行

対象者は10名で予測通りだった。総合事業では入浴・送迎サービスは提供しなくてよいのだが今まで通り実施しており、移行後の利用者様からの苦情などは聞かれなかった。

6. 介護職員処遇改善加算の見直し

経験・資格・職位・職責・職務内容などのキャリアパスを定め、それに応じた賃金体系を整備できた。

7. 感染症予防対策

職員・利用者様で数名の感染者が出たが、すぐにタミフル予防投与し蔓延を防げた。来シーズンもタミフル予防投与を継続していく。

8. 「職場研修」を推進する

利用者様の状態が変わっていてもいつもと同じケアの繰り返しを行うことにならないように、問題が発生した時には臨時研修を開催し、エビデンスに基づいて今必要なケアを職員が同じレベルで行えるように努めた。質の高い介護サービスを提供するため職員教育に力を入れるのと同じようにしっかりと指導のできる、リーダー・チューターの育成が必要だと感じている。

9. 医療法人社団中央会からの寄付贈与

寄付1500万円をLED工事と修繕費・家電製品買い替えの予算に充てていた。結果はLED工事648万円以外にトイレ・洗面所などの水回り修繕、介護物品・機械浴の修理、家電製品買い替えなどに約520万円の支出となった。

10. 事業所目標

特別養護老人ホーム

(1) 思いやりの気持ちを大切に、入居者様、家族様と職員のつながりを深める

入居者様、家族様に思いやりを持って接し、職員とのつながりを深めることを心がけた。

(2) 入居者様にとっての視点を持ち、優先順位を考え行動する

余裕がない時は声かけが丁寧ではなく入居者様優先のケアができてない時があった。

- (3) 看取り時、職員全員が正しい書類作成ができるようになる
新人、異動してきた職員に教えるため、記録の重要性を確認し統一した書類作成ができるよう見直しを行った。

ショートステイ

- (1) ケアプランに沿ったモニタリングを行い、評価していく
各自で担当利用者様のモニタリングはできたが、担当以外の利用者様についても協働してモニタリング・評価を行うことができればよかった。
- (2) 笑顔で明るい雰囲気づくり
笑顔で明るい雰囲気はできていた。

グループホーム

- (1) 利用者様を今見えている状態で決めつけずその人の生活歴や思いを受入れ、寄り添っていく
生活歴を知り家族様からも情報を得て、入居者様の思いを知るように努力をした。
- (2) ケアプランの実践、記録の徹底、情報の共有を行う
毎月のカンファレンスに全員参加しケアプランに沿って活発な意見を出し合い、評価・修正することができた。
- (3) 緊急時対応の勉強会を月に1回行う
エマージェンシー委員会の「緊急時対応」研修会に参加し学習した。

小規模多機能

- (1) 居心地のよいユニットをめざす
職員は利用者様の声を大切に笑顔で温かく思いやりを持って接することができたと思う。しかし、関わる時間は離設や転倒リスクのある利用者様に偏ってしまうこともあった。
- (2) 気づきや情報を共有できるように職員間のコミュニケーションを良くする
毎日のミーティングや連絡ノートの回覧、月1回のミーティングで情報は共有できたと思う。職員間のコミュニケーションはもっと努力が必要だった。また統一したケアを行うためには、各利用者様の個別プランを迅速に作成することが必要だった。
- (3) 職員全員で事業所サービス評価に取り組み、自分たちのケアを見直す
サービスの自己評価をすることで、改めてケアを見直すことや他の職員の考えを知ることができた。評価の結果を次年度の目標につなげたが具体性においては今一步だった。

デイサービス

- (1) 明るく元気な挨拶、丁寧な言葉使いをする
利用者様、職員間で元気な挨拶をして明るい雰囲気をつくることはできた。丁寧な

言葉使いを心がけてきたが忙しい時は乱れてしまうことがあった。今後も利用者様を敬う気持ちを忘れず丁寧な言葉使いをしていく。

(2) ケアプランに沿ったケアを提供する

すべての利用者様のケアプラン把握は不十分であったが、上半期は個別的なレクリエーションを重点的に考え実施することができた。個々の興味ややりがいに注目しレクリエーションを考えたことで、今までになく関心を持って熱心に取り組む利用者様を見ることができた。今後も個別ケアを実施していきたい。

(3) 報・連・相・確認を確実に行う

上司に対して職員間での報・連・相はコミュニケーションをしっかりとってできていた。申し送りや連絡ノートの確認が不十分な時があり、情報共有ができていないことがあったため各自が気を付けていく。

看護部

(1) 情報を共有し統一した看護を提供する

申し送りノートを利用し、毎日、状態の報告を密にすることで情報の共有とメンバーで統一した看護を実践することができた。

(2) 介護職の医療的な知識向上、サービス向上に向けてサポートしていく

ショートステイ、特別養護老人ホームのミーティング、カンファレンスに参加し、細かい情報を得ることができた。医療的な面で助言するが理解が不十分な場合もあり、ケアに反映できていないことがあった。

栄養部

(1) 利用者様の希望を取り入れながら身体の状態に合わせた食事を提供する

軟菜を常食に近い献立で提供しマンネリを防いでいる。手作りハンバーグ・肉だんごなど献立の幅も少しずつ広がっている。

(2) 安全安心かつ楽しく食べて頂ける食事を提供する

食事だけでなくおやつにも季節感をとり入れ、バイキング方式など味だけでなく見た目でも楽しんで頂けるように工夫した。セレクト食は現在も麺類と丼のみになっており来年度は幅を広げたい。

事務部

(1) 各部署と連携して情報の共有をし、来訪者（家族様・取引先の方）に速やかで丁寧な対応をする

来訪者の予定がある場合は、事前に連絡をくれるように各事業所に働きかけているが、まだできていない時があるため継続していく。

(2) 来訪者が来られたら、笑顔ですぐに立ち上がり対応し感じの良い接遇を行う

電話対応中の場合、気付かない時やすぐに対応できない時があったため今後も継続していく。

■ 合計資金収支比較

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
事業活動収入	329,260,422	345,021,821	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645	435,544,661
事業活動支出	271,978,125	290,512,749	302,015,685	348,877,098	384,733,677	385,008,441	394,673,878
事業活動資金収支差額	57,282,297	54,509,072	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204	40,870,783
当期資金収支差額合計	45,775,040	33,903,593	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956	3,280,692

グループホーム開設

介護報酬減額
介護職員処遇改善加算の増額
職員基本給一万円アップ

借入金償還額ピーク
(3400万円)
家電品の修理・買換え
パソコンのサーバー入替え

避難誘導ランプ交換
LED工事 機械浴修理
デイ風呂クロス張替
車両修理

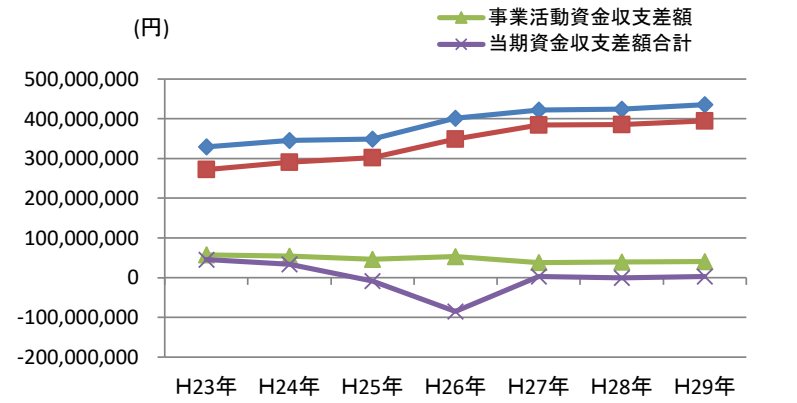
■ 資金収支比較(特養)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
稼働率%	94	93	96	96	98
事業活動収入	135,880,891	136,823,112	142,151,979	143,267,489	147,278,770
事業活動資金収支差額	28,704,013	28,683,499	26,258,580	25,313,988	21,480,041
当期資金収支差額合計	16,667,747	17,055,048	15,020,873	13,959,031	9,948,065

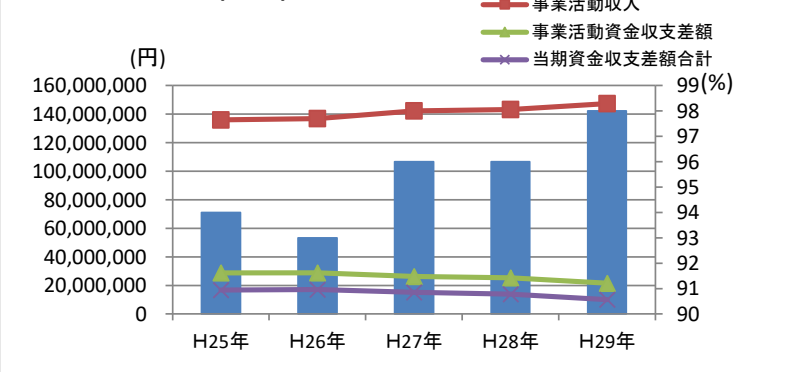
■ 資金収支比較(ショート)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
稼働率%	100	101	99	99	99
事業活動収入	95,371,348	97,571,033	93,177,443	92,711,780	93,900,668
事業活動資金収支差額	17,954,758	18,816,229	13,581,809	7,725,407	7,971,484
当期資金収支差額合計	10,914,112	11,801,699	7,002,627	948,688	1,208,593

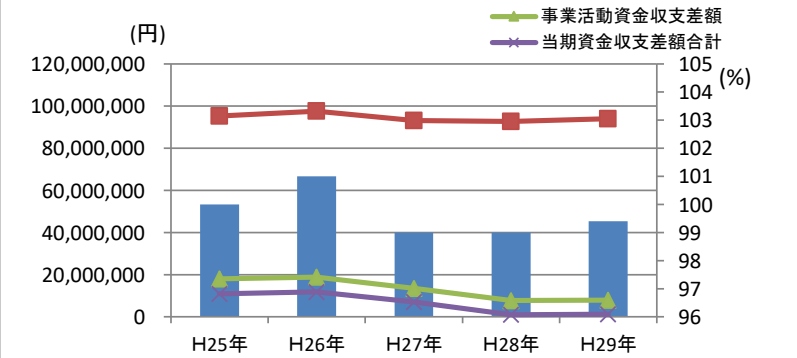
合計資金収支比較図



資金収支比較図(特養)



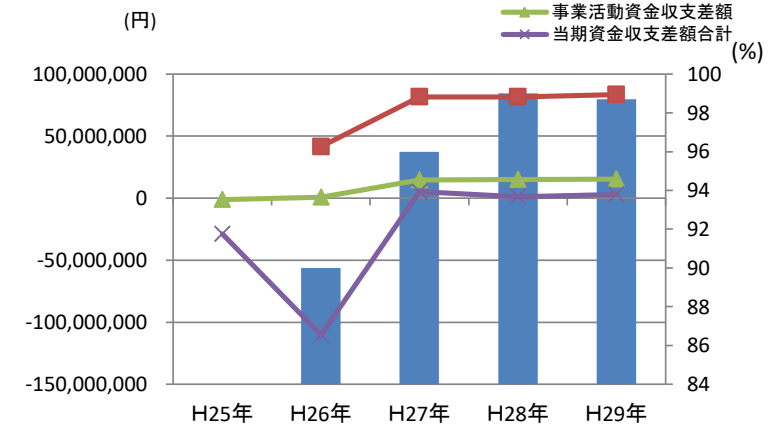
資金収支比較図(ショート)



■資金収支比較(グループホーム)

		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
G H	稼働率%		90	96	99	99
	事業活動収入		41,518,912	81,425,963	81,473,553	83,474,814
	事業活動資金収支差額	-1,189,583	866,957	14,768,653	14,947,148	15,321,896
	当期資金収支差額合計	-28,749,583	-110,268,935	5,288,386	1,269,856	3,073,672

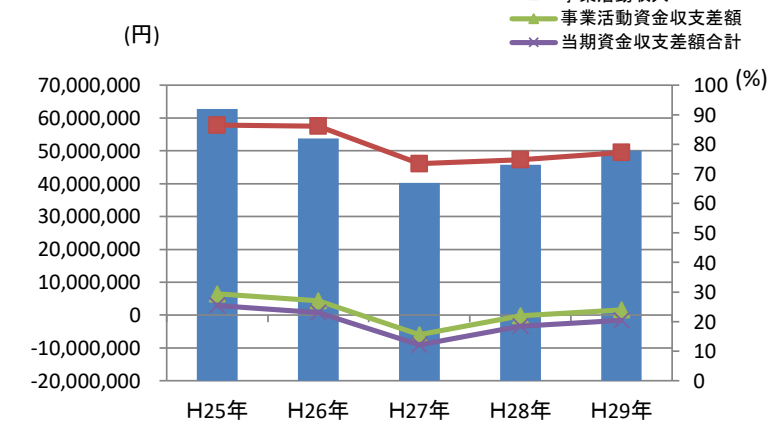
資金収支比較図(グループホーム)



■資金収支比較(小規模多機能)

		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
小 規 模	稼働率%	92	82	67	73	78
	事業活動収入	57,841,244	57,455,598	46,101,530	47,265,785	49,555,204
	事業活動資金収支差額	6,458,835	4,345,766	-5,971,327	-277,614	1,510,557
	当期資金収支差額合計	2,879,180	765,433	-9,073,594	-3,446,369	-1,585,929

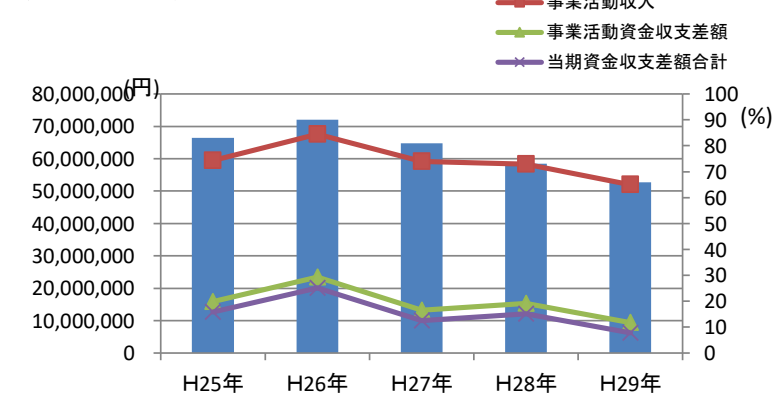
資金収支比較図(小規模多機能)



■資金収支比較(デイサービス)

		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
デ イ ス ビ ス	稼働率%	83	90	81	73	66
	事業活動収入	59,456,832	67,570,641	59,223,220	58,252,109	51,968,513
	事業活動資金収支差額	15,836,433	23,448,624	13,263,971	15,306,598	9,379,163
	当期資金収支差額合計	12,604,826	20,092,683	10,044,102	12,036,539	6,231,044

資金収支比較図(デイサービス)



11. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

[H29年4月1日 ～ H30年3月31日]

年度	月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
平成 29 年 度	4										
	5										
	6										
	7			1	1		1			1	2
	8	1			1						
	9										
	10			1	1					1	1
	11	1			1		1				1
	12	1			1		1				1
	1						1				1
	2	1			1						
	3										
	計		4		2	6		4		2	6

12. 救急車搬送状況

[H29年4月1日 ～ H30年3月31日]

年度	月	件数	部署	状況
平成 29 年 度	4	1	ショート	発熱 右傾斜
	6	1	特養	胸痛 右下腹部痛
	7	2	特養	呼吸状態悪化
			ショート	意識レベル低下
	9	1	ショート	意識レベル低下
	10	1	ショート	転倒：左股関節骨折
	11	1	特養	呼吸状態悪化
1	1	特養	意識レベル低下	
合計件数		8		

13. 事故発生状況（金沢市報告）

〔H29年4月1日 ～ H30年3月31日〕

部署	件数	状況	
特養	1	右下肢裂傷	車イス移乗介助の際に右下肢をフットレストにぶつけたと思われる
ショートステイ	5	右前額部打撲	夜間ベッドから上半身が落ちている状態で発見
		左手甲打撲	夜間トイレ誘導中ドアにぶつける
		左大腿部頸部骨折	風呂場で歩行中バランスを崩し転倒し骨折
		左手首打撲	シルバーカーでバックしようとされ尻もちをつき手をつく
		顔面打撲	早朝トイレの前で転倒、顔面打撲し鼻出血
グループホーム	5	頭部打撲	夕方フロア歩行中に転倒、テーブルの脚に頭部を打撲
		頭部打撲	夜間ベッドからずり落ち、頭部が壁とベッドに挟まった状態で発見
		右手首骨折	夜間居室にて転倒、床にうつ伏せで右手を捻った状態で発見
		右大腿部頸部骨折	床にあるかごの中の洗濯物を取ろうとして、バランスを崩し転倒
		左大腿部頸部骨折	早朝トイレの扉を開けようとした時にバランスを崩し転倒
小規模多機能	0		
デイサービス	0		

14. 職員の採用・退職の状況

〔H29年4月1日 ～ H30年3月31日〕

職種別	施設長	事務員	直接処遇職員				栄養士	療養士	理学療法士	療養作業士	宿直	合計
			相談生活員	介護員	看護員	小計						
平成29年度	採用		1	7 (5)	(1)	8 (6)						
	退職		1	4 (3)	3	8 (3)						
	3月末職員数	1	2 (1)	1	52 (17)	6 (1)	59 (18)	1			(2)	63 (21)

()はパート等非常勤人数

15. 施設職員の研修状況

〔H29年4月1日 ～ H30年3月31日〕

	回数（延べ人数）	
新人研修	2回（13名）	倫理・法令遵守 防災 事故防止 身体拘束排除・プライバシーなど
職場外研修	44回（98名）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会に参加
職場内研修	19回（384名）	リスクマネジメント 記録 栄養・水分について 認知症ケア 感染予防
		身体拘束 看取り 各事業所発表（研修を通して実践していること 不適切ケアについて 身体拘束0への取り組み事例 など）
		意識消失 誤嚥窒息時対応研修
外部講師研修会	10回（230名）	新人接遇・接遇フォローアップ・中堅リーダー研修
		緊急時の対応・胸骨圧迫研修 吐物処理 排泄介助